

日本学術会議 地球惑星科学委員会 国際連携分科会 SCAR 小委員会  
(第25期・第3回) 議事要旨

1. 期日

令和4年5月9日(月) 13:00~14:30

2. 会場

遠隔会議 ZOOM Meeting (主催会場: 国立極地研究所)

3. 出席状況

出席者(委員名簿順): 中村卓司(委員長)、石井守、伊村智(副委員長)、榎本浩之、大野義一郎、小山内康人、川村賢二、柴田明穂、杉山慎、高橋晃周、中井直正、野木義史、橋田元(幹事)

オブザーバ出席: 瀧修一(国土地理院)、矢吹哲一郎(海上保安庁)、堤雅基(極地研)、田村岳史(極地研)、奥野淳一(極地研)、

欠席者(委員名簿順): 原田尚美、道田豊

4. 議題

(1) 経過報告

- ・ 中村委員長から、資料1に基づき、学術会議事務局に提出した加入国際学術団体に関する調査票(2021年9月30日提出)、SCAR2022 総会および科学総会の主要日程、SCAR2022 総会および代表者会議への派遣者、SCAR 各サイエンスグループ等の日本からの登録委員について報告があった。
- ・ 各委員からメンバーとなっている SCAR Science Group 等の報告があった。Five Year Strategic Plan において、中村委員長は Finance & partnership に関する会合、高橋委員は Science and advance 会合の状況を報告した。
- ・ 柴田委員から、2021年11月18日~19日に神戸大学で開催された SCAR 人文社会科学常設委員会隔年学術研究大会が成功裏に終了し、その成果が Antarctic Science 誌に人文科学特集号として掲載予定であるとの報告があった。

(2) SCAR2022 への対応について

- ・ 中村委員長から、科学総会およびビジネスミーティングに関する予定参加者の情報提供があった。
- ・ 大野委員から、SCAR/COMNAP 合同医学・医療専門家グループ (JEGHBM)の主要テーマ、および日本から複数の発表を予定している旨の報告があった。
- ・ 柴田委員から Cross disciplinary session として、自然科学・人文連携のセッションを提

案した旨の報告があった。

- ・ 榎本委員から、ロシアによるウクライナへ侵攻により、IASC に関連した活動や北極観測に重大な問題が発生していることが報告され、南極を含めた今後の見通し等の意見交換が行われた。
- ・ SCAR の Science group および Standing committee の議長・オフィサー等の交代に関する情報共有が行われた。

### (3) 大型研究計画への対応について

- ・ 中村委員長から資料3に基づき、2021年2月に策定された「未来の学術振興構想（仮称）」のもと、学術研究構想（大型計画）を含む「学術振興ビジョン」の提案、その評価方法等に関する説明があった。
- ・ 中村委員長から、野木委員を中心に、JpGU 2022 ユニオンセッション U-08「地球惑星科学の進むべき道 11：地球惑星科学分野の大型研究計画」（5月23日実施。日本学術会議地球惑星科学委員会及び地球惑星圏分科会のヒアリングを兼ねる）に向けた提案の準備が行われている旨の報告があった。

### (4) 極域科学の共同利用機能の強化について

- ・ 中村委員長から、令和5年度の概算要求として国立極地研究所に「国際極域・地球環境研究推進センター（仮称）」を設置することに関して、本小委員会からサポートレターを出すことの可否についてレター文案を示して諮られ、質疑応答の上、承認された。なお、文面の軽微な修正については委員長一任とした。

### (5) その他

- ・ なし。

## 5. 配布資料

資料0： 日本学術会議 地球惑星科学委員会 国際連携分科会 SCAR 小委員会  
(第25期・第2回) 議事要旨

資料1： 経過報告(2022年5月9日、第3回 SCAR 小委員会)

資料2： SCAR 2022 OSC: パラレルセッション提案

資料3： 「未来の学術振興構想(仮称)」の策定方針について(案)

参考資料1： 加入学術団体に関する調査票 (SCAR 小委員会)

参考資料2： JpGU2022 U-08 セッション講演者へのメール

参考資料3： 国際極域・地球環境研究推進センター設置について